

## 第2学年A組 技術・家庭科学習指導案

### 1 題材 「めざせ！消費者ナンバーワン」

#### 2 指導観

○ わが国の産業は発展し、大量生産、大量消費により社会にはあらゆる物資やサービスがあふれている。しかし、近年では、さまざまな方法による販売広告や宣伝が増加し、消費者が商品の必要性や品質を適切に選択・購入することが困難になってきている。これは、新商品が次々と販売され、便利で使いやすい商品・サービスがあふれ消費者が品質の良否を判断しづらい状況があることが原因の一つとして考えられる。また、安全性や契約・取引に関する消費者問題や、携帯電話やパソコンのインターネットの普及によるトラブルが急増している。このことから、消費者としての自覚をもち、責任ある行動や知識を身につけていくことが必要といえる。

本題材では、自分の消費生活を振り返り、消費者としての自覚をもち、生活に必要な物資やサービスの適切な選択・購入ができるように課題をもって学習し、生活を見直し環境に配慮した消費生活を工夫していくことをねらいとしている。学習内容としては、商品の購入、販売方法と支払い方法、商品の契約、消費者の問題、消費者の権利と責任と保護、生活の中での環境への影響などがある。このような学習を通して、商品の選択において、身近にある多くの情報に目を向けさせ、適切な意思決定力をもった消費者として、責任ある消費行動ができる力を身に付けさせることは意義がある。

○ 生徒はこれまでに、小学校家庭科において衣食住などの生活で使う身の回りの物に着目し、その選び方や買い方を考え、適切な買い物ができることについての学習をしている。

事前調査を行ったところ、食品を購入した際、「納得のいく買い物ができなかった」という経験を持つ生徒が94%という結果がでた。その中で「おいしくない」が75%、「量が少なかった」が50%、「パッケージと中身が違った」14%であった。このことから、生徒が食品を購入する際に「見た目」を優先し、深く考えず食品を購入していることが分かる。また、消費者問題の要因として多い携帯電話については、中学生になって「所持している」生徒は53%と半数以上が所持しているにもかかわらず、「使用料金を知らない」と答えた生徒が半数いる。さらに、「インターネットや通信販売を利用している」生徒は31%であるが、「注文した商品がまだ来ない」「本の返品ができなかった」「洋服のサイズや色が違った」という経験をもつ生徒もおり、計画的に商品を選択・購入しているとは言い難いのが現状であり、消費者問題が中学生にとっても身近に迫っていると言える。

○ 指導にあたっては、自分たちの消費生活を振り返り、商品選択・購入の知識を理解し、よりよい消費行動ができるよう、適切な意思決定力を身に付けさせていきたい。そこでまず、自分の消費生活を振り返らせ、商品の購入の際の課題に気付かせる。ここでは、身の周りで起こっている消費者問題についての調べ学習を夏休みの課題として与えておき、さまざまな消費者問題があることを実感させる。また、福岡市の中学生の消費者問題について、教師が準備した手作りビデオ（消費生活センターへの取材）を活用しながら考えさせる。次に、店舗販売と無店舗販売の特徴など基礎的な知識として、販売方法の特徴について学習させる。さらに、課題を解決するための調べ学習をさせる。ここでは、調べ学習の計画を立て、自分のもっている課題についての「被害状況」「被害の事例」「被害に合わないためのポイント」について調べさせる。最後に、ポスターセッションによる課題別グループによる発表を行わせる。ここで使った学習プリントを各自ファイルにとじさせ家庭用の暮らしの手引き書（A中 暮らしの手引き書）として活用させる。そして、これからの消費行動について改善していけることを考え、家庭実践に取り組みさせる。

#### 3 目標

- 自分の消費生活を振り返り、身近な販売方法の特徴や利点と問題点に関心をもとうとする。
- 自分の生活が環境に与える影響を知り、環境を考えた家庭生活について工夫できる。
- 物資やサービスの情報を収集、整理し、適切な選択・購入・および活用ができる。
- 物資やサービスの選択・購入の利点と問題点、適切な対処法を理解することができる。

#### 4 計画（8時間）

- 第一次 自分の消費生活を振り返り、商品購入の際の課題に気付く ----- 1（本時）
- ・夏休みに調べた商品購入のトラブル
  - ・福岡市の中学生の消費者問題
  - ・アンケート結果からみえる課題
- 第二次 販売方法の特徴について知る ----- 1
- ・店舗販売と無店舗販売の特徴
  - ・支払い方法の特徴とクレジット
  - ・商品の契約
  - ・消費者問題
- 第三次 課題解決のための調べ学習をする ----- 4
- 1 調べ学習の計画を立てる ----- (1)
    - ・調査方法（図書室にある図書資料，パソコン室でのインターネットによる情報，消費生活センターの資料，アンケート調査など）
    - ・調査内容（被害状況，被害の事例，被害に合わないためのポイント）
  - 2 課題別グループに分かれて調べ学習をする ----- (3)
    - ・店舗販売（食品，衣服など）による問題
    - ・通信販売（インターネット，携帯電話も含む）による問題
    - ・電話勧誘販売による問題
    - ・訪問販売による問題
    - ・キャッチセールスによる問題
- 第四次 ポスターセッション通してこれからのよりよい消費生活について考える ----- 2
- 1 課題別グループによる発表をする ----- (1)
    - ・被害状況
    - ・被害の事例
    - ・被害にあわないためのポイント
  - 2 これからの消費生活について考え，まとめる ----- (1)
    - ・消費者の保護と権利
    - ・消費生活と環境
  - 3 家庭での実践を行う ----- 課外
    - ・消費生活のレポート
    - ・「A中 暮らしの手引き書」の利用

5 本時 平成19年9月19日（水） 第5校時 計画第一次1／1 2-A教室にて

##### (1) 本時の指導観

生徒は夏休みの課題として、社会における消費者問題について調べ学習のレポートを作成している。

本時では、社会における消費者問題の多さを知り、中学生の実態から、社会における消費者問題が中学生においても問題であることに気づき、自分の課題として考えることをねらいとする。そのためにもまず、夏休みのレポートの集計しておき、どのような問題点があるのかを発表させ、関心をもたせる。そして、これから消費生活についての学習をしていくことを知らせ、本時のめあてを確認する。その際、夏休みのレポートの集計結果によるグループに分けておく。次に、班の一人にレポートの内容を発表させ、各グループではどのような問題点があるのかを把握させる。また、班でそれぞれが調べてきた内容を準備しておいた記入用カードに記入させ、黒板に貼ることで、社会における消費者問題の多さを実感させる。ここでは、消費生活センターで取材して準備しておいた「中学生の消費者問題」についての手作りビデオを見せ、社会における消費者問題が中学生にとっても考えなければならない問題であることに気付かせる。さらに、自分にとってどのような内容が課題であるのかをランキングさせ、自分の問題として考えさせる。最後に、本時のまとめを行い、次時の予告を知らせる。

(2) 主眼

○ 社会における消費者問題の多さを知り、自分たちの課題として考えることができる。

(3) 準備

- ①班別グループカード      ②学習プリント      ③プロジェクター      ④スクリーン      ⑤記入用カード
- ⑥ビデオ      ⑦福岡市の消費者問題のまとめ      ⑧自己評価表

(4) 過程

学 習 活 動 ・ 内 容	資料・教具	留 意 点	形態	配時
1 本時のめあてを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">           社会における消費者問題から、自分の消費生活を振り返ろう         </div>	①②	○夏休みの課題レポートの集計結果をカードにまとめ、準備しておき、社会にどのような消費者問題があったのかを知らせ、このことから消費生活についての学習をしていくことを確認する。	班	5
2 どのような消費者問題があるのかを知る。 (1) 課題レポートからみえる消費者問題の例を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗販売（食品や衣服など）による問題</li> <li>・通信販売による問題</li> <li>・電話勧誘販売による問題</li> <li>・訪問販売による問題</li> <li>・キャッチセールスによる問題</li> </ul>	②③ ④	○課題レポートの集計結果によるグループに分かれておく。 ○発表はグループ別班から1人決めておき、発表させる。	班	20
(2) グループで全員のレポートの内容を簡単に記入し黒板に貼る。	②⑤	○全員の生徒からでてきたカードを黒板に貼らせることで、消費者問題の多さを実感させる。	班	
(3) 福岡市の中学生の消費者問題を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・世代別の消費者問題の現状</li> <li>・若い世代の消費者問題</li> </ul>	②③ ④⑥ ⑦	○事前に消費生活センターの方に中学生の消費者問題の現状を話してもらい、ビデオに撮っておく。ここで、消費者問題は自分たちにとっても身近な問題なのだということを実感させる。 ○自分たちが調べた内容とビデオの内容を比較し、自分にも関わる問題なのではないかということを確認する。	個	5
3 自分たちのアンケートの結果をもとに、自分たちに迫る消費生活の課題に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の中での課題ランキング</li> </ul>	②	○生徒のアンケート結果から、通信販売やネット販売、携帯電話の利用の現状を知らせ自分の課題として考えやすいようにする。 ○自分の中での消費者問題に順位を付け、個人の課題へと意識させ、今後の調べ学習につなげる。	個	15
4 本時のまとめをし、次時の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価</li> </ul>	②	◇社会における消費者問題の多さを知り、自分の課題として考えることができたか。 〈学習プリント・自己評価表分析〉 ○次時は販売方法の特徴について学習することを伝える。	個	5

第2学年「めざせ！消費生活ナンバーワン」全体計画と評価規準表（全8時間）

関：関心・意欲・態度 工：工夫・創造 技：生活の技能 知：知識・理解

段階	配時	学習活動・内容	評価規準 〈評価方法〉【項目】	具体的評価規準	
				十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)
気 付 く	1	1 自分の消費生活を振り返り、商品購入の際の課題に気付く ・夏休みに調べた商品購入のトラブル ・福岡市の中学生の消費者問題 ・アンケート結果から見える課題	関：社会における消費者問題の多さを知り、自分の課題として考えようとする。 〈夏休みの課題レポート分析〉 〈学習プリント分析〉 【安全】【情報】	・夏休みの課題レポートの集計結果と消費者問題の内容の発表から、社会における消費者問題の多さに気付く。 ・自分の課題ランキングを行い、消費者問題に関心をもつ。	
	見 通 す	2 販売方法の特徴について知る ・店舗販売と無店舗販売の特徴 ・支払い方法の特徴とクレジット ・商品の契約 ・消費者問題	知：販売方法、支払い方法・契約などの特徴について理解する。 〈学習プリント分析〉 【契約・取引】	・販売方法の利点と問題点に分かり、契約 ・支払い方法の仕組みや販売者と消費者の責任と義務を理解している。	・販売方法の利点と問題点に分かり、契約 ・支払い方法の仕組みを理解する。
さ ぐ る	4	3 調べ学習の計画を立てる ・調査方法 ・調査内容	技：課題による調べ学習を能率よく行うため、調査内容や調査方法などの計画を立てることができる。 〈調査計画プリント分析〉 【情報】	・調査内容や調査方法について能率的に、調査計画を立てることができる。	・調べ学習の計画を、方法や内容について立てることができる。
		4 課題別グループに分かれて調べ学習をする ・店舗販売による問題 ・通信販売による問題 ・電話勧誘販売による問題 ・訪問販売による問題 ・キャッチセールスによる問題	技：調査計画にそって調べ学習をすることができる。 〈活動チェック〉 〈調べ学習プリントチェック〉 〈発表用資料分析〉 【情報】	・被害状況、被害の事例、被害にあわないためのポイントについて調べ、分かりやすく資料を工夫する。	・被害状況、被害の事例、被害にあわないためのポイントについて調べる。
ま と め る	2	5 ポスターセッション通してこれからのよりよい消費生活について考える ・課題別グループによる発表	技・知：発表を聞いて被害状況、情報源、トラブルの解決法、活用のポイントをまとめることができる。 〈学習プリント分析〉 【安全】【契約・取引】【情報】	・発表を聞いて情報を収集し、学習プリントにまとめ、その内容を具体的に説明する。	・発表を聞いて情報を収集し、学習プリントにまとめる。
		6 これからの消費生活について考え、まとめる ・消費者の保護と権利 ・消費生活と環境	工：消費生活が環境に与える影響を知り家庭での消費生活について工夫する。 〈学習プリント分析〉 【環境】	・資源を利用した消費生活が分かり、資源の再利用・再使用について考え、家庭での消費生活を工夫する。	・資源を利用した消費生活が分かり、家庭での消費生活を工夫する。
課 外 生 か す		○家庭で実践する ・「A中 暮らしの手引き書」	関：これまでの学習を生かし、安全な商品購入、契約・取引、情報の適切な活用、環境への配慮などのポイントを考えながら実践できる。 〈家庭実践レポート分析〉 【安全】【契約・取引】【情報】【環境】	・商品を選択・購入する際、安全な商品の購入、契約・取引、情報の適切な活用、環境への配慮などを考慮し実践したことが述べられている。 ・実践を振り返り、消費生活における課題に気づき、次に生かそうとしている。	